



# 今後の地中熱エネルギーの活用は

町長＝公共施設の建設や改修などで導入を検討

**問** 今後の地中熱エネルギー導入計画は。

**町長**

建設中の伊南保育所と、来年度から建設予定の役場新庁舎に地中熱エネルギーの導入を予定しています。

その他の施設への導入は、現在のところ具体的な計画はありませんが、今後、公共施設の建設や改修などで、無散水融雪も含めた地中熱エネルギーの導入を検討します。

**問** 平成2年に田部地区で温泉ボーリング調査が実施されました。

**町長**

現在も残るその井戸を活用し、地中熱エネルギー政策を進める考えは。

地中熱エネルギーを効果的に利用するには、井戸の中に採熱パイプを通して砂で隙間をなくし、掘削する深さと本数を決めるための採熱試験をする必要があります。

田部地区の井戸は約1400口の深さがあり、メーカーによると現在の技術では150口以上の深さには対応できないので、現実的ではないと考えます。

**畦畔**を利用した太陽光発電を

町長＝必要に応じて検討

**問**

町内の水田には、畦畔の高さが5m以上に達する箇所が数多くあります。

**町長**

その斜面に太陽光パネルを設置して、米づくりと発電事業の「半農半電」を推進しては。

耕作放棄地や遊休農地の解消に有効な施策ですが、維持管理に必要な作業道の確保や電力線までの距離、積雪対策、農地への影響など、事業の採算性や地域への波及効果など総合的な観点から判断し、必要に応じて検討します。



畦畔を利用した小松堀排水路発電施設の太陽光パネル  
(新潟市亀田郷土地改良区内)

その他の質問

- ・屋内温水プールを地中熱エネルギーにより実現させ健康増進を
- ・グリーン投資減税による再生可能エネルギーへの民間参入拡大を